[普及事項]

新技術名: ニホンナシ「秋泉」の収穫適期は収穫着色基準板で判定できる

(平成 23~28 年)

研究機関名 果樹試験場 総務企画室 天王分場班 担 当 者 菅原哲平·長澤正士

[要約]

ニホンナシ<u>「秋泉」</u>の成熟果は、ていあ部の果皮色を基に作成した<u>収穫着色基準板</u>により4段階(チャート値1~4)に分けられる。チャート値が大きいほど果実の熟期が進み、チャート値2~3が収穫適期である。

[普及対象範囲]

県内のニホンナシ生産者

[ねらい]

ニホンナシ「秋泉」は成熟期における果皮色の変化が乏しく、収穫適期の判定が難しい。 未熟果は果肉が硬くデンプン臭を有し、過熟果は日持ち性が低下するため、高品質な果実 を収穫するためには適期の見極めが重要となる。収穫始期は、満開日と生育初期の積算気 温を基にした収穫予測式から推測できるが、樹内の個々の果実でも成熟期がばらつくこと から、収穫時は生産者自らが適期を判定する必要がある。そこで、果皮色を基に収穫着色 基準板を作成し、その実用性を明らかにすることで適期の判定法を普及する。

「技術の内容・特徴〕

- 1 収穫着色基準板は、天王分場の平成23年度産果実を基に作成した(写真1)。ていあ 部の地色が農水省地色カラーチャート指数の3.5、4.0、4.5、5.0に相当する果実をそれ ぞれ50果以上抽出し、最も平均的な色合いの果実を目視により選抜した。なお、チャー ト値は地色指数3.5を1、同4.0を2、同4.5を3、同5.0を4とした。
- 2 チャート値が大きくなるに従い果実糖度は高くなり、果実硬度は低下する(図1)。 これらの値は、生育期の気温や日照時間により年次差がみられる。
- 3 チャート値1で収穫した果実は、出荷基準である果重500gを超えた場合でも、食味が優れる基準としている果実糖度13%に満たないことがある(表1)。また、チャート値4で収穫した果実は日持ち性が低下し、夏期が高温である年には果肉障害もみられる(データ略)。そのため、チャート値2~3が果実の収穫適期である。
- 4 収穫着色基準板により仕分けした果実は、同じチャート値でも収穫期が遅くなるに従い熟度が進む傾向がみられる(表 1)。収穫果の品質を均一化するためには、同一圃場での「秋泉」の収穫期が 14~21 日間程度であることを考慮し、収穫始期から 7~10 日後まではチャート値 3、それ以降はチャート値 2を目安に収穫する。

[成果の活用上の留意点]

- 1 「秋泉」の収穫始期は、回帰式 Y=-0.1759X+269.2474 (Y:満開日から収穫始期までの日数、X:満開日から満開 40 日後までの積算気温)により予測することができる。
- 2 本成果は、砂丘未熟土に植栽され、マメナシを台木とした木で得られたものである。

[具体的なデータ等]

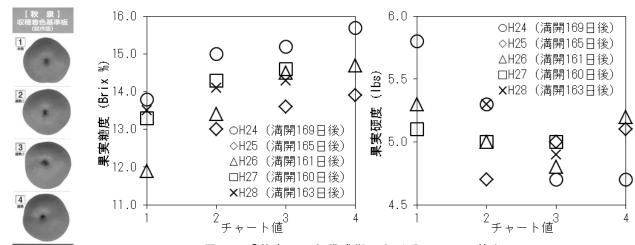


写真 1 「秋泉」収穫着色基準板

図 1 「秋泉」の収穫盛期におけるチャート値と

果実糖度(左)および果実硬度(右)との関係

(平成 24~28年)

表 1 「秋泉」の成熟特性(平成28年)

満開後 日数	チャート 値	果数	果重	地色指数 ^z	硬度	糖度	リンゴ酸	糖度基準
							含量	達成割合,
		(個)	(g)	$(c.c.\pm S.D.)$	(lbs)	(Brix°)	(g/100mL)	(%)
149	1	13	667	3.1±0.2	5. 7	13. 2	0.080	54.0
	2	8	629	3.6 ± 0.2	5.5	13.6	0.080	100.0
	3	1	604	4.0	5.3	13.8	0.087	100.0
	4	0	-	-	-	-	_	-
156	1	9	680	3.2±0.3	5. 5	14. 1	0.096	89.0
	2	19	665	3.8 ± 0.3	5.4	14. 2	0.085	100.0
	3	5	705	4.3 ± 0.3	5. 2	14.5	0.084	100.0
	4	0	_	-	-	-	_	-
163	1	2	603	3.5±0.0	6. 2	13.5	0. 072	50.0
	2	11	653	4.1 ± 0.3	5.3	14. 1	0.079	91.0
	3	10	694	4.3 ± 0.3	4. 9	14.3	0.083	100.0
	4	0	_	-	-	-	_	-
170	1	0	_	_	-	_	_	_
	2	5	694	4.4 ± 0.2	4. 9	13.3	0.080	100.0
	3	20	663	4.5 ± 0.3	5. 2	13.9	0.073	100.0
	4	14	633	4.9 ± 0.2	4.9	14.5	0.082	100.0

______ ヹ 農水省地色カラーチャートによる

[発表論文等]

なし

^y 陽光面および陰光面で非破壊糖度を測定し、双方で 13%以上を満たした果実の割合